

視点1 授業改善の充実 取組③

子ども一人一人の資質・能力を確実に伸ばしましょう



今回の全国学力・学習状況調査の結果から、他県に比べて本県は、「正答率の高い子どもが少ない」ことが明らかになりました。1単位時間の授業において、子どもの学習状況を確実に見取り、個に応じた課題を新たに与えるなどの手立てを講じることで、子ども一人一人の資質・能力を確実に伸ばしましょう。

子ども一人一人の学習状況を確実に見取りましょう

つまずきのある子どもへの指導・支援の工夫だけではなく、授業中における「おおむね満足できる」、「十分満足できる」状況の子どもについても、発言・記述・表情などから学習状況をしっかり見取りましょう。

確実に見取るためのポイント



どの場面で、どのような評価方法で評価するかを明確にしておく。

中心となる学習活動における子どもの具体的な姿を明確にしておく。

ノートやワークシートに、どのような記述があれば、おおむね満足な状況と判断するかを明確にしておく。

確実に見取り、子ども一人一人に適切な手立てを講じましょう。

発展的な課題や補充的な課題に取り組ませましょう

発展的な課題や補充的な課題に取り組む場や時間を工夫して、子ども一人一人の資質・能力を伸ばしましょう。

取組例

- 本時のねらいを達成した子どもには、見いだした方法が他でも成り立つかどうかを考えさせたり、難易度の高い課題を段階的に用意して選択して取り組ませたりするなど、発展的な課題に主体的に取り組ませる。
- 授業の後半で、子どもを習熟度別に2つのグループに分け、それぞれの習熟度に応じた課題に取り組ませる。
- 授業中、つまずきのある数名の子どもを集めて、補充的な問題に取り組ませたり、ていねいに説明したりするなど、本時のねらいの達成に向けてつまずきを解消する。